

クマ送りの儀礼

送り儀礼はアイヌ文化の中心をなすものです。これは贈り物に対してカムイ（神霊）に感謝し、その霊を神々の世界へ送り返すために行われる共同体全体の儀式です。カムイは動物、植物、自然現象、道具など、様々な形で人間の世界を訪れます。クマの送り儀礼であるイオマンテは、アイヌの儀式の中で最も格式の高いものの一つです。

クマはアイヌの神話で重要な象徴であり、山の神（キムンカムイ）と呼ばれています。クマは肉と毛皮によって共同体の生活を支え、クマの儀式はアイヌの生活様式における山のカムイの重要性を反映しています。

イオマンテは新生児として見つかった子グマのために執り行われます。子グマの世話を任されることは、カムイから授かることのできる最も大きな名誉の一つです。共同体はそれにふさわしく子グマを育てます；最初は家の中で育て、その後は囲いの中で飼育し、健康で十分な栄養を与えられるように気を配ります。クマが1歳か2歳になると、送り儀礼の準備が始まります。

これらの準備は数週間続くことがあり、儀式用の敷物を編んだり、装飾的な矢など、カムイへの儀式用具や贈り物を彫ったりする作業が含まれます。また、神霊への供物として酒も醸造され

ます。数日間続く儀式は、通常は祈り、歌、踊り、宴会で始まります。それに多くの儀式が続
き、最終的にカムイの魂を解放するためにクマは供犠されます。カムイは供物で感謝され、再
び人間界に戻ってくることを願って、夜通し祝宴で慰められます。